

今回のインターンシップには、講義・実習で習得した知識、技術を業務内容と照らし合わせながら、実社会でどう活かしていくべきか考え、実践的応用能力を養うことを学び、将来に社会人としての活動に役立てること、また、森林管理署の業務内容、伊那谷の国有林の管理方法を知ることが目的として参加した。

1日目は管理している国有林についての説明を受け、実際の現場を見学しながら経営係の仕事内容を説明していただいた。GPSを使って石標と境界を確認した。さらに5,36haの皆伐地の見学をした。森林において、境界を明確にし、管理することで、適切な計画を立てることができるのだとわかった。皆伐跡地を見るのは初めてであった。最初に見たときはよい印象をもてなかったが、説明を聞いて、森林施業には様々な方法があり、実施するには考慮しなければならない点が多々あることを学んだ。

2日目は八島ヶ原湿原と麦草峠に行った。レクリエーションの場、貸し付け地や異なるタイプのシカ防除柵を見学した。国有林の豊かな自然がレクリエーションの場として、利用され多くの人に癒しを与える重要な役割を担っているのだと知ることができた。また、シカによる被害木とシカ防除柵を見て、森林は人による管理が必要なのだと理解した。説明を聞いて柵の維持管理の手間とシカによる被害対策の課題点がよくわかった。

3日目は製品生産事業の現地見学、検知、巻立業務について木材センターを訪問、高齢級間伐を実施したカラマツ林を見学した。点状間伐を行った林分や列状間伐を行っている林分、搬出した材を扱う木材センターの見学をしたことで、木材の価値を高めるために林分の状況によって間伐方法を選択し、木材センターでは用途別に選別するといった努力がなされていることがよくわかった。また、作業場に実際に足を運んだことで、森林での作業の危険性や大変さなどを実感した。森林施業は理想だけでは成り立たないのだということも実感した。

4日目はしらび平に行き、土砂石により崩壊した林道で除去すべき土砂石量を算出する測量を体験した。ふだん見ることのできない危険な崩壊地を目の当たりにして、治山事業の必要性を理解した。実習で経験していた測量という技術が実際の仕事ではどのように利用されているのかわかり、また作業を行う体験を通して仕事の大変さを実感した。

5日目は様々な治山工事、砂防工事が施された現場を見学した。地すべり防止工事を実施している現場を見て、講義などで写真を見て想像していたよりも、範囲が広大で治山事業の規模の大きさを理解した。そして、ひとつの治山事業を実施するにも、段階的な手順を踏み、長期的に施工する必要があると聞いて、自然と向き合う仕事がとても難しいことなのだと改めて感じた。

インターンシップに参加して、5日間という短い期間であったので森林管理署の業務の全てを知ることはできなかったが、職員の方々が綿密な計画を立て、周到な準備をしてくださったので、業務の概要と一部がよくわかった。また、国有林が抱えている問題についても知ることができた。

大学で学んだことが社会でどのように活かされているのか理解するととても重要な経験をすることができた。今後の大学生活と就職活動に活かしていきたい。